

演題「クマが教えてくれた水源の森の危機」 講演要旨

祖先が手付かずで守ってきた「奥山水源の森」は、戦後の国土総合開発計画や拡大造林政策、道路、スキー場建設、地球温暖化などにより大量に破壊され、クマなどの大型野生動物たちは、すみか とえさ場を失った。

空腹に耐えかねたかれらは、生きるために人里に出てきて農作物をあさるようになり、有害獣として毎年大量に駆除され続け、悲鳴を上げている。地元の人たちも また、増える獣害に悲鳴を上げている。

しかし、大型野生動物たちが棲む豊かな森を早急に復元しなければ、私たち人間もまた、21世紀を生き残ることはできないのだ。

日本で自然が守れないのは、政治家を動かせるだけの会員数を持つ自然保護団体が皆無のためである。

日本にも欧米並み、100万人の自然保護団体を！